

参本、陸軍省、外務ノ案ヲ勘考シ判決セリ

賀屋 南方ニ出テ所要ノモノハ軍ニ取ツテ貰フカ物的ニ陸海軍ノ戦力ヲ補給シ得ルカ否カカ問題タ概念論テナク大体此邊トノ判定ヲシ度イ

六本日ハ總理ヨリ兩總長ニ對シ再審議ノ進度遅クシ相濟マストノ斷
リアリ

十月二十九日(水) 自午後一時 第六十四回連絡會議
至午後十時

十月三十日(木) 自午前九時 第六十五回連絡會議
至正午

第五問題ハ第九問題「物ノ見達シ」並第十問題「外交ノ見達シ」ニ付研究ス

○第五、第九問題

一、鈴木總裁說明

(1) 液体燃料ニ付人石ニヨルノハ如何、

早急ニハツクレス又之ニテ燃料ニ關スル國防ノ安全ハ期待

シ得ス

(四) 南方作戦遂行ノ場合液体燃料如何

或程度ノ遣リ繰リヲスレハ

「第一年二五五」「第二年十五」「第三年七〇」万立^十幾ル

但航空用燃料ハ第二年末ヨリ第三年ニハ危クナル場合モア

ル

(六) 鐵

一七年需要ハ一六年物動ヲ基礎トシ賄ヘル

但船三〇〇万吨ヲ要ス而シテ三〇〇万吨ノ船舶維持スル爲

ニハ、毎年六〇万吨ノ船ヲ新造スルヲ要シ之カ爲三〇万吨

ノ鐵ヲ必要トス

○海軍ノ⑥計畫ヲ何ヒ度

ニ艦政本部總務部長

海軍トシテハ造船ハ逐次増加スルコト次ノ如ク、鐵ニ對スル

不安アリ又造船ヲ六〇万吨行ハムトセハ七ツノ條件ヲ要ス

一七年 九五万吨

一八年 一〇〇万吨

一九年 一二〇万吨

二〇年 一〇〇万吨

二一年 一〇〇万吨

三 賀 歴

鐵ト船ニ就テハ不安アリ尙考ヘル必要アリ

○第十問題

一 「日米交渉ノ見込如何」

何レモ短期間ニ成功ノ見込ナシ、海軍省ハ二週間テモ見込ナ

シト言フ

二 「各條件ノ譲リ得ル限度如何」

本問題ニ就テハ問題ニ論議アリテ、結局「幾何迄ニ譲リ得ル

ヤ」トノ議題ニ變更セリ

論議ノ結果

一 三箇條約ニ從來通り、變更セス

二 四原則ノ適用ハ、今迄米例ニ違ヘシコトハ已ムナシトスル

モ東郷ハ「條件附ニテ主權上同意」ト言フコトモ不可ト考

ヘアル旨述フ

ハ支那通商無差別待遇ハ「無差別原則カ全世界ニ適用セラル
ルニ於テハ」トノ條件ヲ附シテ「南西」ヲ省クモ可ト定マ

レリ

本件ニ就テハ參本ハ猛烈ニ、變更セサル如ク頑強リタルモ、
總理ヨリ、政府側ノ反對強ク此妥協案ヲ申シ出ツ

永野總長ハ突然「通商無差別ナトヤツタラドウダ太ツ腹ヲ

見セテハドウカ」ト言ヘリ

ニ佛印撤兵問題ハ今迄通り。

我駐兵撤兵

今迄通り、但シ外交上ノ應接トシテハ所要期間ヲ概ネ二十

五年ト應酬スルモ可、ト定マレリ

本件ニ關シテハ杉山、塚田ハ強硬ニ據リ退シ東郷ハ「撤兵

スルモ經濟ハヤレル否寧ロ早ク撤兵スル方可ナリ」等現實

ヲ忘レタルコトヲ主張セリ海軍モ駐兵ニ熱意ナク參本カ極

力主張シ論議沸騰ス

總理ハ「永久ニ近イ言ヒ表ハシ方」ニヨリ年數ヲ入ルルコ

トヲ提議シ、九十九年、五十年、三十年、二十五年等ノ外

交上ノ表^見現法ニ付二十五年ヲ採用スル如ク提議シ次長ハ二

十五年ナトト年數ニ解レル弱氣ヲ見セルコトニ特ニ不^同知意

ヲ表明セリ（米ハ二十五年、二十年、十年ヲモ恐ラク受諾

セサルヘシトノ観測多シ

三「米カ益的ニ容認スル場合日本ハドウナルカ」

外務省ヲ除ク全員ハ帝國ハ三等國トナルヘシト判決セルモ、

外相ハ山本^{山本}集^集ニ條件ヲ少シ低下シテ容認セハ何テモ好轉

スルト判決シ一同ニ奇異ノ感ヲ懷カシメタリ

○次ニ明三十一日再會スルコトヲ主張セルモ實屋ハ「一日考ヘサセテクレ」東郷ハ「頭ヲ整理シ度シ」等トテ一日延期ヲ希望シ
總長ハ一割モ延延ヲ許ササルコトニ關シ約三十分ニ亙リ説明シ
水野モ急クコトヲ主張セリ

○總理ヨリ十一月一日ニハ激夜シテモ決定スヘク左記ニ關シ研究

シテハ如何ト述フ

第一案 戦争スルコトナク臥薪嘗膽ス

第二案 直ニ開戦ヲ決意シ戦争ニヨリ解決ス

第三案 戦争^決意ノ下ニ作戦準備ト外交ヲ併行セシム

(外交ヲ成功セシムル機ニヤツテ見タイ)

○本日ノ會議ニ於テ

外相ハ外交ヲヤツテ見タイ口吻ヲ洩セリ、海相ハ依然ハツキリ

セス、實屋ハ質問多キモ眞^眞取^取ナリ

水野ハ戰爭準備ヲ行ヒ外交ハ外交テヤレト述フ

期日ニ就テハ政府側ハ統帥部ノ言フコトモワカルカ、私共モ固

不審ハ納得出来ネハ困ル
ル一日ニハ微聲シテモ解決シ度ヌ故明日ハ休シ度シト哀願的ニ

希望シ之モ無理ニ引キハナスヲ得サリシ次第也

○議論ハ參謀總長、次長カ専ラ強硬論ニ主張シ、孤立無援ノ形ニ

テ東條ハ陸軍大臣トシテノ發言ト總理トシテノ發言ヲ區分スル

コト困難ニテ特ニ陸相トシテ參謀本部ヲ支援スル程度ニテ、
局ニ於テハ陸相トシテ參本ト同意見ノ主張ヲナスヨリモ總理ト

シテ參本ト政府側ノ意見ノ折衷妥協ヲ提議スルコト多キ勢況ナリキ

十月十四日間議ニ於テ陸軍大臣説明後宮中ニ

於ケル木戸、東條會談要旨

(於總長室東條談)

木戸 次ノ内閣ハ六ツカシイ

陸軍ハ九月六日ノ御前會議ヲ基礎トシテ戰爭出來ルト言

フテ居ルカ、海軍ニハ不安カアル。此點カ總理カ踏切レ

ヌ處タト思フ、政治家トシテハ考ヘサセラレルノタラウ

東條 海軍大臣ニ「海軍ハ九月六日ニ定メラレタ決心ニ何カ變

化カ出來タノカ、若シ之カ變化シタノホラソレニヨツテ

造マウ」ト問フタカ海軍ハ「變化ナシ」ト言フタ

